岩手県立花巻清風支援学校　令和５年度　第２回学校運営協議会報告書

１　日　時　　令和５年 10 月３日（火）10:00～12:00

２　会　場　　本校会議室

３　出席者

（１）学校運営協議会委員出席 14 名　欠席１名

会　長　委員　学識経験者
副会長　委員　北上地区、福祉関係者
Ａ委員　委員　地域関係者
Ｂ委員　委員　地域関係者
Ｃ委員　委員　遠野地区、福祉関係者
Ｄ委員　委員　ＮＰＯ関係者
Ｆ委員　委員　企業関係者
Ｇ委員　委員　行政関係者
Ｈ委員　委員　教育関係者
Ｉ委員　委員　教育関係者
Ｊ委員　委員　ＰＴＡ関係者
Ｋ委員　委員　同窓会関係者
Ｌ委員　委員　同窓会関係者
校　長　委員　本校職員

【欠席】
Ｅ委員　委員　企業関係者

（２）本校職員 13 名

４　学校運営協議会

（１）　開会：副会長

（２）　校長挨拶

（３）　会長挨拶

（４）　各分教室の紹介、寄宿舎の紹介

（５）　前期の学習活動の取組みにつて
～休憩～

（６）　協議　【進行　会長】

～児童生徒が、地域社会の中で生き生きと自分らしい姿で、自立と社会参加できるために～

ア　地域社会の中で、本校児童生徒（卒業生）についての理解を深めるためには、どうしたらよいか

イ　実際の地域社会の中で、児童生徒の力や学習活動を生かし、学びを深め、自己有用感や自己肯定感を高めるような活動の在り方について

【校長】

学校卒業後にそれぞれの地域社会に戻り、自立した社会参加を送ることを目指して教育活動を行っている。前期の学習の様子で紹介したとおり、様々に工夫しながら学習活動を行っている。しかし、従来から特別支援学校の課題として、学んでいる児童生徒が自宅のある地域と離れ、学校生活を送っている間に地域社会との結びつきが薄れがちになるということが指摘されている。併せて、児童生徒に地域社会への帰属意識を育むといったことにも課題があると考えている。これらのことを鑑み、児童生徒が在学中から出身地や学校が所在する地域とのつながりを育むその中で、児童生徒それぞれに自分が必要とされているという自己有用感や自己肯定感を育む学習活動を実践することが大切だと考える。児童生徒の健全な育成に向け、委員の皆さまから御意見をいただき、今後の教育活動に反映させていく。

【会長】

分教室の実践は、正に地域に密着していた報告であった。資料には、太田地区との交流等、様々なことが書かれている。どの切り口でも構わないので考えていること、先ほどの実践報告スライドの説明を受けての感想等でも構わないので発言をお願いしたい。

【A委員】

教育に携わっていない立場からすると非常に難しいと感じている。会長が話したように永遠のテーマであり大きな課題だと思う。身近なことを考えれば報告にもあったように、いろいろな場面で地域の人と対面し、触れ合う場面をつくり出していければよいと思う。太田地区としては、県下でも大きな清風支援学校が地区にあるというだけで誇りとして自慢できると感じている。

普段、学校と地域の住民が直接、接する機会が少ない。グループ活動や道の駅での交流ということしか思い浮かばない。感染症の影響も弱まり社会活動が元に戻りつつある。以前は、花火大会等で姥宿行政地区と懇親会も開催していたことを聞いた。学校で働く教職員の皆さんや寄宿舎で暮らす児童生徒の皆さんとの懇親会でも実現できればよいと思っている。

【K委員】

自分が経験してきた話をする。長男は中学部から６年間在籍し、寄宿舎にもお世話になった。小学校は、地元小学校の支援学級に在籍した。地区の子供会にも所属し、地域の子どもたちとかかわりをもてたが、ここでの６年間は地域とのかかわりは基本的にはないという状況だった。北上市に居住しており 60 歳まで青年会で活動してきた。夏にはボウリングなどの行事があり、子どもと一緒に参加してきた。ここ数年は参加できていないが、そういう意味でも６年間地域とかかわりをもてなくても、この地域にはこういう子どもがいるということを親自身が発信していかなければならないと思ってきた。子どもへの理解をいただくことは難しいことだと思うが、障がいがある子どもがいるということを発信することが非常に大事なことだと思う。

【会長】

交流する機会をたくさん設けると理解が進むということではなく、少ない回数でも深く心に残し覚えてもらうことも可能だと思う。経験を心に深く残すための内容やその手立てを学校がしっかり考える必要があると思う。K委員も話したように、地域の中には障がいがある子どもたちを受け入れてくれる場所がたくさんある。報告では、新聞記事への掲載やニュースで取り

上げてもらったなど、マスコミを効果的に活用した紹介があった。第三者的なところへも積極的にアプローチすることが、今後、増々重要になる。私も教員だったが、学校は素晴らしい取組を積極的に宣伝することに対して控えめだと感じている。学校の取組を積極的にＰＲすることも必要だとあらためて感じている。

【H委員】
北上みなみ分教室に通うお子さん方は、地域の子供会に所属しているかお聞きしたい。所属しているのであればその中で地域とかかわることができると思うのだが。

【北上みなみ分教室副校長】
所属していない。所属できないことになっているという言い方が合っているかもしれない。

【Ｊ委員】
兄が子供会に所属していた際、弟（本校在席）を一緒に活動させてよいか兄の学校に尋ねたことがある。子供会は事故に備え保険に加入しているが学校在籍以外の兄弟のお子さんについては、保険適応対象外であり、万が一、事故が発生しても責任を負えないとの理由で参加を控えていただきたいという回答だった。理由は理解できたが小学校在籍児童の就学前の兄弟は参加可能だった。支援学校に在籍している我が家の場合は参加できない、と区別されていることは問題であると感じ、教育委員会へ問い合わせをしたが学校と同様の回答だった。
私は今も様々な場所や活動に子どもを連れ出している。また、災害発生時のために我が家には子どもへの応援態勢が必要であることを民生委員に知らせている。これは親として必要な心構えだと思っている。親自らが家族の状況をさらけ出せるということがなければ真の意味で、地域に溶け込むことはできないと感じているところだ。

【会長】
保険は簡単に加入できる。それを建前に子供会に参加できないという論理には首をひねりたくなるような思いがする。Ｊ委員が感じたように受け入れる側の課題意識の不足ではないかと感じる。分教室の実践報告にもあったように子どもたちは障がいのあるなしで考えていない。一緒に遊び、ともに育っている。大人の意識を変える必要がある。

【Ｆ委員】
協議題アについては、地域社会側が、児童生徒、卒業生への理解を深めていくことと捉えている。企業や会社の立場から言えば、職業体験に来てもらえるようにするということ。体験に来てもらうことは会社にとってとてもよいこと。現場には毎日いろいろな仕事があるが、特にも製造現場ではマンネリ化することがある。しかし、お子さんを預かり、慣れない人に仕事を教えるプロセスの中で、自分たちの勉強にもなるし、会社の雰囲気もよくなる。先生方は受け入れてもらえるかと不安に思うかもしれないが、会社側からすれば来てほしいと思っているはず。
私の会社は養豚や食肉、飲食関係のためどちらかと言えば小学校や中学校からも体験に来てもらえるほうだ。他の企業や会社も門戸は開いているが学校から依頼が来ないと思っているはず。支援学校だけではなく小学校や中学校も同様だと思う。お子さんや親御さんの立場からすれば、聞いたことのある企業や会社、お店を選択しがちになることも当然だと思うが、叶うの

であれば、何度も体験を受け入れてもらっている実績があるところばかりではなく、あえて違う企業や会社を訪問していただきたい。繰り返すが会社側は来てほしいと思っているはず。協力してくれる企業や会社は、商工会議所や青年会議所などに体験を受け入れるという意思を伝えていると思う。そういう企業や会社を利用してもらいたい。

分教室の活動報告でも協力いただいた企業名が挙がっていた。確かに知っている特定の会社、例えば、花巻温泉など誰もが知っている企業には依頼に行きやすいと思う。名前も知り利用したことがあればなおさらだと思う。ただ、学区内にある企業や会社で実習すれば、企業や会社側もお子さん側も双方ともに理解が進んでいくと思う。

【会長】

企業、会社訪問について進路担当者からお願いします。

【進路指導主事】

学校の立場としても産業現場等実習に当たっては、多くの企業や会社に依頼したいという気持ちが大いにあります。最近は生徒数が減少している状況です。実習をお願いするに当たっては、言葉での指示理解力、危険に対する認知力があるということなど、ある程度の力を有している生徒をお願いすることとしています。

先ほどの話を聞き学校側で線を引くということではなく、可能性がある生徒については２年生で現場を経験させることが必要になってくると考えているところです。今年度の例では、前期を福祉で、後期を現場でお願いしたいと考えている生徒もおります。折に触れ、様々なところに相談させていただきながら調整を図っていきたいと思います。

【会長】

出がけに見たニュースでは、国全体的に労働者不足という話題が取り上げられていた。福祉事業所の形態は複数で、働き方も様々です。個々の力や事情に応じながら働ける時間に働くという様々な可能性を探ることと、地域とのかかわりも併せて考え進めることが大事ではないかと思う。

【Ｌ委員】

久しぶりに同窓会が開催された。会場の学校まで来る手段がなく、参加できない方もいたが、懐かしい顔に会うことができた。親同士もここ数年は離れていたが同窓会をきっかけに連絡を取り合い、子どもたちのことやお互いの近況を報告し合うことができた。

話は変わるが、先日の花巻まつりでは、初日に何人かで集まり楽しんだ話を聞いた。子どもたちも二十歳を過ぎておりお酒を飲みながら楽しんだようだ。その中の一人が酔ってしまい、ある御夫婦が自宅まで送り届けたならば、これまでお礼も言わなかったような子が自分から「すみません、ありがとうございます」と礼を言ったと喜んでいた。私も話を聞いてうれしくなった。その方のお母さんが「うちの子たち、お互いを支え合ってやってこられた」「一人ずつだったら勤めることができなかったと思う」と、学校の先生にとても感謝していた。この話を聞き、親同士も会わないまでも連絡を取り合い、情報や近況を報告し合うことが必要だと思った。

家には先日も同級生が遊びに来ていて、11 月３日に会う相談をしていた。その様子を見ていたが、会っているだけでお互いが安心しているように見えた。子どもたちにとっては清風という学校が心のより所になっていると感じた。あるお母さんが「うちの子は何も分からないから」

と話すので「学校へ連れて来てみて」「絶対にいい顔を見せてくれるはず」と伝えた。私も親として子どもが長く勤められるように必死にフォローするが、友達の存在も大きな支えになっていると思う。勤めていれば嫌に感じることもあると思うが、この学校と縁があって、つながることができた。私自身、これからも周りの人とつながり、つなげていこうと思っている。

【会長】

同窓会が果たす役割はとても大きいです。Ｌ委員も話していましたが、何をするわけでもないが会うだけでも頑張ろうという気持ちになるものだと思います。

県南のある学校に勤めていた 20 年以上も前のことですが、あるとき卒業生が友達と学校に来て、桜の下で写真を撮り合っていた。校舎には入らなかったが「また、明日から頑張ろう」と話し、帰って行ったエピソードを思い出した。学校はそういう所、そういう存在だとあらためて感じた。

進路担当者が異動した後のことなどアフターケアーの現状について話しをいただきたい。

【進路指導主事】

一般企業に就職した場合は、地域の「障害者就業・生活支援センター」（※通称なかぽつセンター）に登録し、支援をいただいている。一年目は学校主体で支援センター職員に同行いただきながら企業訪問し、定着度合の様子を伺っている。二年目以降は「障害者就業・生活支援センター」主体で支援に当たっていただいている。仕事面だけではなく生活面も含めて様子を聞いている。必要と思われる支援があればセンターと連携しながら行っている。

福祉就労者は、相談支援専門員が主体で支援いただいている。学校は産業現場等実習の巡回時に卒業生の様子についても併せて伺っている。仕事面は学校も一緒になって支援に当たることが可能だが、生活面の支援となると現実的には難しいというのが現状。

【会長】

福祉に携わるＧ委員からお願いします。

【Ｇ委員】

アフターケアーは福祉側も学校在学中から携わらせていただいている。今後も本人、家族、支援学校と連携を密に、卒業後の仕事や生活についてサポートしていきたい。

【Ｂ委員】

協議テーマに　～児童生徒が、地域社会の中で生き生きと自分らしい姿で、自立と社会参加できるために～とある。20 年ぐらい前までは、学校から進んで地域に密着していた。今は少しずつ地域から遠ざかっていると感じる。生徒数の減少に伴って企業就労できる力をもつ生徒も少なくなったと説明あったが、Ｆ委員から企業は門戸を開いているという話があった。テーマに掲げていることと実際にやっていることが違うと感じる。レベルの違うお子さんが多数在籍し、先生方も大変だと思うが、一人一人のレベルに合うような企業を探すということに取り組んでほしい。学校は手芸、農業、木工など様々なことに取り組んでいることも理解しているが、地域と密着するということは、そのようなことから始めなければいけないと思う。是非、実践してほしい。

【会長】

様々な子どもたちが在籍し、先生方も心配すると思うが、心配のしすぎで地域との壁をつくらないようにという提言であると受け止めた。

【C委員】

地域社会の中でということについては、子供会の例のように参画できないということが問題。まず、参画できる方向にすることが必要だ。地域は非常に広いので、行政区単位での居場所づくりをすることが大事だと思う。

実習の話については子どもたちを改善するという視点ではなく、いろいろな子をいろいろな人に見てもらい、様々な子どもたちがいることを知ってもらうようにしないと理解が進まないと思う。企業では働ける子ばかりが来ることで、このような子たちが支援学校に在籍していると思ってしまう。学校側で生徒の実習体験先を分けないということが望ましいと考える。いろいろな人がいることを世の中にみせることが本当の理解につながっていくと私は感じている。

地域社会で様々な問題を起こすお子さんもいるが、それはそれで社会も理解している。学校行事だけではなく、地域の行事も生かしながら地域とともに子どもを育てていければと思う。

【D委員】

私どもの活動は集団での活動で、例えば、地元の道路や墓地公園の掃除などを利用者と一緒に行うなど顔が見える活動を展開している。学校でも取り組んでいるような地域貢献活動といわれるようなこと。

今年度は障害者に対する理解者が増えてほしいということをねらい、専門学校や高等学校と「モルック」というニュースポーツで交流を行った。

地域との交流となると個人と集団が、それぞれあるが、個人が行政区に入っていくには保護者の理解が必要で、保護者がその気にならないとなかなか進まないと思う。地域に入っていくためには保護者への啓発が必要になる。個人単位での関わり、コミュニケーションの機会をつくっていくなどの仕掛けが必要になると思いながら話を聞いた。

協議イの自己有用感、自己肯定感については、学校のボランティア活動と企業とがタイアップした活動がすごくいいと思いながら拝見した。私たちの施設でボランティアを募集すると、個人的には中学生も高校生も参加してくれる。清風支援の子どもたちも、例えば、夏休み中にどこかへ出かけ、個人でボランティアをするといったこともあるとよいと思った。ボランティア活動は感謝され、本当に励みになると思うし、お互いを知ることにもつながる。

卒業生の保護者と話す機会があった。買い物ができるというライフスキルも大事だが、金銭を管理する力や余暇時間をうまく使うといった時間管理能力も身に付けてほしいという願いを聞いた。できることを増やす、というライフスキルを多く身に付けていくことが自己有用感や自己肯定感につながり、そしてその力をもつことが地域への参加にもつながっていくと考える。

【会長】

どれもその通りと思いながら話を聞いた。教え子の話になるが会社に就職した際、会社の方と相談し、キャッシュカードの使い方を教えた。ところがわずか一週間で給料の全額を遣ってしまった。生活がどうにもならないと友達のお金に手を出してしまったというエピソードがある。生活に必要なスキルを学ばせるに当たっても様々なことを想定しなければならないということを学んだ。

【Ｉ委員】

学校間交流の視点で話します。私も、本校の職員も、支援学校から依頼があって交流をするといような思いがあるのではないかと思っている。冒頭に多様性という話があったが、その視点からすれば、私たちの学校から発信していかなければならないと感じた。今の教育課程の中で新たなものをつくり出すことは難しいが、今、取り組んでいることの中で支援学校に来てもらい、一緒にかかわりながら活動するという視点をもつことが大事になると思いながら話を聞いた。

【副会長】

15 年前の話だが自己有用感や自己肯定感にかかわる思い出話がある。平成 19 年に島根県松江市にある精神障害の方々の通所施設事業所を視察した。そこで知的障害者の方々を特定子会社という形で銀行が数名採用したというテレビ放送を録画したビデオを見た。特定子会社制度が新しい頃で、今でも印象に残っている。銀行は最初にネクタイの結び方を教えたようで、ネクタイをした皆さんが出勤する場面が映っていた。みんながうれしそうに、にやにやした顔で出勤する様子が映っていた。彼らの仕事は銀行にある様々な書類に棚版を押すことだった。今、銀行はほとんどの書類が電子化されているはず。彼らは今、何をしているのだろうか・・・。学校で取り組んでいただきたいということでもないが、個人がもつ光る力をスペシャリスト的なレベルまでそのスキルを伸ばしていただければ、どの会社も是非、採用したいと思うはず。2040 年問題を知っていると思うが、これから介護事業所は厳しくなるといわれている。会長も人材不足の話をしていたが、介護の仕事は小さいころから取り組むことができると思う。掃除の仕方などは学校活動の延長でスペシャリスト的なレベルまでのスキルを身に付けることができれば、会社の方から是非、我が社にということにつながっていくのだと思う。

【会長】

高齢者が増え認知面に心配を抱える人も多くいる世の中となった。生徒たちが話し相手になるなど介護の何かしらにかかわる仕事に就くという発想も今後の突破口になるかもしれない。

指導が難しい子どもたちがいるが、できないという目線ではなく、どうやればできるようになるか、どこを工夫すればよいかということを学校は今後も考えてほしい。学校現場とすれば非常に厳しい意見もいただいた。（能力的に）できない、（障害の程度が）重い軽いということではなく、どうやればできるようになるのかということを今後も考え続けてほしい。

御参加いただいた委員の皆さま、貴重な御意見をたくさんいただきありがとうございました。

（７）諸連絡

（８）閉会：副会長